

お父さんの読み聞かせ

山形市立西小学校「読み聞かせ親父の会」

みなさんは子どもの頃、お父さんから絵本を読んでもらったことがありますか？
今回は、お父さんによる読み聞かせをしている、山形市立西小学校を訪問しました。

西小学校でお父さんの読み聞かせを始めたきっかけは、校長先生(富樫彰三氏)の一声からだったそうです。校長先生に伺いました。

●読み聞かせのきっかけは？

西小学校に着任する前から、個人的に読み聞かせをしていて、重要性を感じていました。読書は心を豊かにします。学校の特色として図書館教育の充実を掲げ、図書館の改装などがありますが、学校の取り組みだけでは限界があり、家庭にも協力を得たいと考えました。

お母さんの読み聞かせは各学校で実施されていて実績もありました。育児

はお母さん中心ということが多くですが、お父さんにも活躍して欲しかったのです。

●お父さんたちの反応は？

最初は抵抗があったようですが、自分子ども以外にも目を向ける機会になるし、お父さん同士や地域とのつながりもできて、お父さん自身のコミュニケーション力も高まったのではないかと思います。

●読み聞かせはどのように進めていますか？

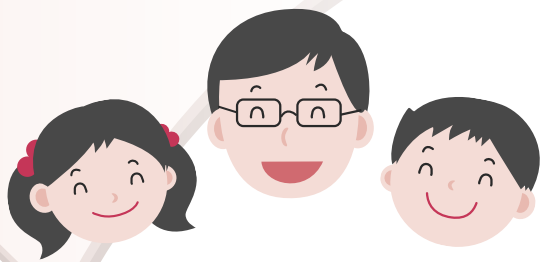
「読み聞かせ親父の会」として、メンバーは現在18人です。(先生3人含む)



1~3年生と4~6年生の二つに分け、毎月交互に実施しています。時間は午前8時30分から10分間。各学年は3クラスずつあるので、読み手は必ず9人必要になります。お父さんたちの都合が悪いときは、メンバーの先生にお願いしています。

●子どもたちの反応は？

最初から楽しそうに熱心に聞いています。お母さんたちから、学校で読み聞かせをしてもらっていたので、耳を傾ける土台が出来ていました。



読み聞かせをしてみてもお父さんたちの感想

参加してみると自分も楽しくなります。次に読む本を学校から借りて予習してくるお父さん、市立図書館からわざわざ絵本を借りてくるお父さん、絵本を読むだけでなく落語をするお父さんもいるくらいです。

仕事のやりくりもありますが、短い時間なので少し出勤時間が遅れる程度で済みます。周りの環境も変わりつつあるので、義務感からではなく、自ら楽しんで読み聞かせをしています。

自分が子どもの頃は、父親から絵本を読んでもらったことはありませんでした。今の子どもたちは恵まれています。



学年が上がってくると、親たちも自分で読めるだろうと、読み聞かせをする機会が減ってくるかもしれませんが、自分で読むのと、読んでもらうのとでは違います。読んでもらうことで親子間のコミュニケーションが図れます。

※取材を終えて

小学校を訪れると「おはようございます。」の元気な声が響き渡っていました。その元気な子どもたちは読み聞かせが始まると一変しました。集中して耳を傾けています。お父さんたちも、こんなに熱心に聞いてくれるのだから、楽しくなるでしょう。お父さんの中には、自分の子どもが小学校を卒業しても読み聞かせを続けている方もいました。親という立場だけでなく、地域で子どもを見守る姿勢が表れていると感じました。

心豊かでたくましい子どもに

第58回全国公立小・中学校女性校長会 全国大会山形大会



最近女性の校長先生も増えてきました。教員として、管理職として、先生方は日々どのように学校生活を送られているのでしょうか。

平成20年7月31日から8月1日まで山形テルサを主な会場にして、全国から650名の公立小・中学校の女性校長先生が集まりました。子どもたちが自他の命を大切に、夢に向かって精一杯生きることできる学校の創造をめざして、教育活動・研修活動・学校経営の三つの分科会、計六分散会に分かれて協議がなされました。

その中の一つで「男女共同参画社会における教職員の意識改革と体制づくり」を議題とした分散会を取材しました。

先生方は、北は北海道から南は沖縄県まで各地から集まっていました。

第一部は、議題に沿った提案として、東京都の小学校から人権教育の取組みが紹介されました。主題は「思いやりのある子の育成」とし、朝のあいさつ運動や道徳授業の充実、子どもたちだけでなく、先生自身の人権意識を高めるためのチェックシートの作成など様々な取組みがなされ、結果、保護者アンケートでも評価が上がったことが紹介されました。

これに対して、他県の先生から質問や自分の学校での取り組みの紹介がありました。

第二部は、グループに分かれて協議しました。女性校長は少しずつ増えてきているが、小・中学校とも教

員総数では女性が半数を超えていることからすると、その割合は少ないこと。先生個人の生活環境(介護など)や単身赴任など、様々な障害があり、女性校長登用が進まないことが見えてきました。

グループで協議した結果を発表し、それを踏まえ助言として、山形県男女共同参画センター館長金澤和子さんが、自分自身が校長として経験してきたことや、学校での先生の役割分担も「ずっとしてきたから」といって、性別で決めてしまっていないが、気づくことから始めましょうとアドバイスし、分散会は終了しました。